

令和3年度 京都府立北嵯峨高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (実施段階)

学校経営方針	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>「独創質実(何事も自ら考え、主体的に判断し、真摯な態度と素直なこころで行動する。)」の校是の下、高校生活の限られた時間の中、集中力と工夫により学習と部活動の両立を实践し、「人を育て、心を育む」教育を目指す。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規律ある生活により、学力・体力・情操の向上を図る。 2 科学的認識を養い、創造性と実践力を育てる。 3 保護者・地域との連携を深め、生徒の進路についての願いを實現することに努める。 4 地域の歴史と文化遺産に対する理解を深め、その文化を守り育てる力を養う。 	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) コロナ禍の中、ICTを活用するなど、試行錯誤を繰り返しながら一定の学習効果をあげることができ、進路実現にも繋ぐことができた。 (2) 継続した指導により生徒自らが生活規律を理解し、学校生活全般にわたり主体的に行動することができた。 (3) 学校行事や部活動が制限される中、工夫を凝らし生徒が活躍する場が持て、成果を上げた。 (4) 生徒会や部活動生徒のボランティア活動が実現できた。 (5) ホームページの積極的な更新、Classi等の活用により保護者、生徒への情報発信が効果的に行えた。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒が主体的に新しい生活様式に適応し様々な「学びの保障」を確保 (2) 感染防止に努めながら部活動のさらなる充実と発展 (3) ICTの効果的な活用と家庭学習の定着 (4) 嵯峨・嵐山の他に例を見ない教育資源の積極的活用 (5) 新学習指導要領の実施に向けた教育活動の研究・実践 	<p>(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止の徹底 新しい生活様式に向けた「行動の変容」を促す取組を進め、自ら考えて行動できるように様々な教育活動を通じて感染しない、させないという危機意識を醸成する。</p> <p>(2) 部活動の推奨 本校の強みである部活動を通して地域との繋がりを密接にする。特に、学校行事や地域行事等への積極的な参加を通して自己有用感を高め、部活動で培われる規律が学校全体に影響を及ぼし、豊かな人間関係を構築することができるようにする。</p> <p>(3) 情報活用能力の育成 タブレット端末等のICT機器を有効に活用し、遠隔授業やプロジェクターを通して学びの保障に繋げていく。</p> <p>(4) 嵯峨・嵐山の教育資源の活用 日本の伝統文化や文化遺産の宝庫の嵯峨・嵐山の教育資源を最大限に活用したプログラムを実施する。特に総合的な探究の時間では教科横断型の授業を通して嵯峨の魅力を確認する。</p> <p>(5) 新学習指導要領を見据えた教育活動の実施 来年度に迫った年次進行の導入に向け、各教科の特性を生かした教科横断的な視点で導入を図っていく。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価	成果と課題	
学習指導	◇新学習指導要領に対応しつつ危機に強い、教科指導力を向上させる。	◆ICTやClassiの活用を含めて学習効果を高め基礎基本を徹底し学力を充実させながら、深い学びにつながる授業となるよう工夫・改善に努めるとともに学びの保障を実現する。	1	A	A	ICT機器の整備が進み、研修会も多く開催され、授業での活用の充実が図れた。また様々な場面で学びの保障が実現できた。
	◇特別支援教育を充実させる。	◆教職員で情報を共有し、合理的配慮の提供に努め、関係機関とも連携し個々の状況に応じたきめ細やかな指導を行う。	2	A		
生徒指導 特別活動	◇愛校心を育成し基本的な生活習慣を身につけさせる。	◆身だしなみ指導を通じて、本校生徒としての自覚と誇りを養うとともに、基本的な生活習慣の定着を図るために教職員の共通理解と一致した指導体制を構築する。	3	A	B	服装指導・遅刻指導・携帯電話指導を中心に行うことができ、落ち着いた学校生活を送ることができた。交通安全指導についてが日常的に指導を行っているが、さらなる生徒の意識向上が必要である。コロナ禍の中、地域活動への参加は制限されたが、総合的な探究の時間での地元フィールドワークや披講、吟行、近隣施設での芸術展示などを行うことができた。
	◇交通規則の遵守と交通安全に対する意識を高める。	◆関係各団体と協力し、交通規則の順守と、自転車の交通マナー及び交通安全に対する生徒の意識を向上させる。	4	B		
	◇地域の教育資源を活用しながら生徒の主体性・社会性を育成する。	◆生徒会や部活動を中心として多くの生徒が、地域の活動に主体的に参加できるよう、社会性やボランティア精神を育成し、豊かな人間関係の構築を目指す。	5	B		
進路指導	◇希望進路の実現に向けて進路指導を行うとともに、小中学校から連続してキャリア意識の形成を図る。	◆学年部・教科担当者・部活動顧問が個々の生徒の学力状況・学習状況を把握し、3つの方向からの指導により、学力の向上と進路希望の実現を図る。	6	B	A	学年部、進路指導部、教科担当者等と連携しながら、個々の進路実現を目指す指導ができた。今後もクラス担任・教科担当者・部活動顧問など多くの教職員が生徒に関わることを本校の強みとして、生徒一人一人の個性を伸ばす進路指導に努める必要がある。
		◆キャリア教育を充実し、生徒個々の進路意識の向上を図るとともに、就職率100%、大学進学率70%を目標に生徒個々の適性と希望に応じた進路指導を推進する。	7	A		
人権教育	◇人権問題を正しく理解させ、感染症に関する偏見や、いじめの根絶を図る。	◆あらゆる教育活動に人権の視点を入れ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決や、いじめ等の未然防止のための意識を高め態度を育成する。	8	A	A	人権意識を育成するため、組織的かつ計画的な取り組みを続けた。いじめ事象については、教職員間の情報共有を図り適切な対応ができた。
健康・安全 教育	◇配慮を要する生徒に対して適切な支援を行う。	◆保健部と担任や教科担当と情報の共有を図り生徒の状況を適切に把握し、教育相談会議等を活用し関係機関とも連携し、配慮を要する生徒への支援を適切に行う。	9	A	A	保健部と学年部が連携し、教育相談会議で配慮を要する生徒の情報を全教職員で共有し丁寧な対応ができた。・スクールカウンセラー、学び生活アドバイザーも指導に活用することができた。生徒の環境美化意識を高めるとともに、換気や黙食など健康安全意識を高めるべく継続して指導を行う。
	◇教育環境づくりを推進するとともに、環境保護の意識を高める。	◆日々の清掃活動を徹底し学校の環境を整備するだけでなく、環境保護の意識向上に向けて生徒も教職員もゴミの分別を徹底する。	10	A		
図書館指導	◇図書館を活用した指導を充実させ、時代の要求に対応した図書館を目指す。	◆教科との連携を通じて生徒の読解力向上を目指すとともに、視聴覚機器を活用した授業を展開する。	11	A	A	授業や進路指導など多方面で図書館を活用した取り組みができた。視聴覚機器のあり方が検討課題である。
安全管理 情報・文書	◇学校の危機管理体制を教職員と生徒が一体となって強靱化する。	◆教職員と生徒自身が危機管理対応について理解を深め、自分や他人のために安心安全に適切な対応ができるようにする。	12	B	B	危機管理について教職員間でさらなる共通理解が必要である。ICTの充実により情報管理が一層重要になってきている。
	◇ICTの拡充にとまない学校の情報管理体制の一層の徹底を図る。	◆生徒の多様な個人情報適切に管理し、学校の情報管理体制の充実と教職員のセキュリティ意識の向上を図る。	13	B		
家庭・地域 社会との 連携	◇広報活動を一層充実し、速やかな情報提供を図る。	◆各中学校との連携を深め、HPの積極的な更新等広報活動を一層充実させ、信頼される「行きたい」学校づくりを進める。	14	A	B	ホームページやSNSで情報発信を行った。説明会でも本校の魅力が伝わった結果、志願者増につながった。コロナ禍で保護者や地域の関係機関と連携を深めることが難しかった。
	◇地域に信頼される学校づくりを進める。	◆学校運営協議会、PTAとの連携を深め地域に信頼される学校づくりに努める。	15	B		
学校運営協議会による 評価	コロナ禍であったが、できる限り教育活動を工夫して実施したことは評価できる。嵯峨・嵐山の教育資源の活用も一定実施することができたが、さらに卒業生などを活用することで充実したものではないか。また嵯峨を学んだ上で京都以外の地域や海外へ視野を広げる取組ができないだろうか。本人や家庭など様々な課題を抱える生徒一人一人に寄り添った教育が必要となっている。文化系も含めて部活動の一層の活性化が望まれる。確かな学力向上を図り生徒の希望進路の実現に努める必要がある。					
次年度に向けた改善の 方向性	北嵯峨という地域のメリットを最大限に生かした教育を実施する。新型コロナウイルス禍であってもICTなどを活用して教育活動を実施していく。運動部・文化部の一層の活性化による「強い北嵯峨」を実現し、豊かな人間性を育成する。スタディサプリや一人一台端末の導入などを機に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を統合的に行うことで「主体的・対話的で深い学び」を実現し学力向上を目指す。併せて新学習指導要領に基づいた指導と評価を一体として実践し社会で必要とされる資質・能力を育成する。					